

Ⅳ．平成14年度広島大学原爆放射線医科学研究所 学術講演会記録

研究分野	年月日	題 目	所 属	演 者
放 射 線 ゲ ノ ム 学	平成14.11.8	真 核 生 物 に お け る DNA 損 傷 チェックポイントを制御する分子 機構 ー酵母細胞をつかった解析と高等 生物の制御機構との比較ー	名古屋大学大学院理学研究科生命 理学専攻	杉本勝則
	平成15.3.24	巨大 DNA 操作によるヒト人工染 色体ベクターの構築	琉球大学医学部附属沖縄・ アジア医学研究センター	要 匡
ゲ ノ ム 応 答	平成14.12.20	放射線誘導 Rad52核内フォーカス 形成の c-Abl を介するリン酸化に よる制御	米国ハーバード大学公衆衛生学部	北尾洋之
	平成15.1.17	Death Receptor Fas:Fas シグナルと 細胞増殖シグナル間のクロストークと抗 Fas 抗体による臨床応用の 可能性について	京都大学大学院生命科学研究科	米原 伸
	平成15.1.27	中心体キナーゼ Aurora-A による Lats2リン酸化の解析	大阪大学微生物病研究所	野島 博
	平成15.3.11	ゲノム安定性と不安定性	東北大学大学院生命科学研究科	山本和生
	平成15.3.25	ミトコンドリアを介したアポトー シス制御	大阪大学大学院医学系研究科	清水重臣
分 子 発 が ん 制 御	平成14.4.8	DNA 損傷応答と突然変異の誘発	京都大学ウイルス研究所 遺伝子情報解析研究分野	大森治夫
	平成14.9.17	遺伝子治療用ウイルスベクターの 開発	カリフォルニア大学ロサンゼルス 校微生物学・免疫学講座	三谷幸之介
	平成14.11.22	Research activities on the late effects of ionizing radiation in Hungary	National Research Institute for Radiobiology and Radiohygiene, Department of Molecular and Tumor Radiobiology, Budapest, Hungary	Dr. Geza SAFRANY, M.D., Ph.D.
	平成15.2.13	乳腺発がんにおける「一塩基不安 定性」と「メチル化不安定性」	国立がんセンター研究所 発がん 研究部	牛島俊和
	平成15.3.26	自然突然変異における酸素ラジカ ルの役割	奈良先端科学技術大学院大学 バ イオサイエンス研究科 原核生物 分子遺伝学講座	真木寿治
	平成15.3.28	放射線誘発リンパ腫発症の遺伝学 : 個体レベル解析の意義と困難さ	新潟大学大学院医歯学総合研究科 遺伝子制御講座 分子生物学分野	木南 凌
が ん 分 子 病 態	平成15.1.14	低分子化合物を利用した白血病治 療に向けた基礎研究: 活性型チロ シンキナーゼレセプター FLT3の 特異的阻害剤の同定と解析	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター 細胞療法分野	北村 俊雄
遺 伝 子 診 断・治 療 開 発	平成15.1.7	癌特異的免疫療法の開発	東京大学医科学研究所 先端医療研究センター	田原秀晃
	平成15.1.7	pH 制御分子と癌治療	産業医科大学 分子生物学講座	河野公俊
	平成15.3.7	IPAS による生体低酸素応答の制御	東京大学医科学研究所附属病院	牧野雄一
血 液 内 科	平成14.7.23	The latest update for allogeneic transplantation in solid tumor	米 国 The University of Texas M.D. Anderson Cancer Center	Dr. Naoto Ueno

研究分野	年月日	題 目	所 属	演 者
	平成14.11.11	Insites into hematopoiesis from non-human primate genetic marking studies	米国 NIH	Dr. Cynthia Dunber
	平成15. 3. 4	Epo レセプターシグナル伝達における Src チロシンキナーゼの役割	香川医科大学 臨床検査医学講座	北中 明
	平成15. 3. 6	細胞骨格と疾患	山梨大学 臨床検査医学講座	高蓋寿朗
腫 瘍 外 科	平成14. 8. 3	消化器癌内視鏡外科学の現状	大分医科大学 第一外科	北野正剛
	平成14. 9. 21	抗癌剤適正使用ガイドライン	県立愛知病院	有吉 寛
	平成15. 2. 15	大腸早期癌の歴史	(財)早期胃がん検診協会	丸山雅一
細 胞 再 生 学	平成14. 5. 24	Strategies for Prevention of Colon Cancer by Cyclooxygenase-2, and Inducible Nitric Oxide Synthase Inhibitors and Dinfloromethylornithine Administered in Combination	Associate Director of Research Chief, Division of Nutritional Carcinogenesis American Health Foundation	Bandaru S. Reddy, DVM, Ph.D
	平成14.12.16	ES 細胞に由来する肝細胞を用いた肝不全治療の試み	国立がんセンター研究所 がん転移研究室	落谷孝広
	平成15. 3. 6	原爆被爆による多因子病増加の理論?	放射線影響研究所臨床研究部 原爆放射線医科学研究所客員教授	鈴木 元
	平成15. 3. 18	肺癌の病理学・疫学一組織学から遺伝子発現解析まで	(財)癌研究会 癌研究所 病理部	石川雄一
	平成15. 3. 19	ヒト胃腸混合型腸上皮化生について	愛知県がんセンター研究所腫瘍病理部	塚本徹哉
組 織 再 生 制 御	平成14. 7. 31	腎臓発生の分子機構	東京大学医科学研究所・幹細胞シグナル分子制御研究分野	西中村隆一
	平成14. 9. 26	ポリコム遺伝子群による造血幹細胞の自己複製制御と再生医学	大阪府立成人病センター研究所	瀧原義宏
	平成15. 3. 19	ドッキング分子の個体発生・腫瘍進展における役割	国立がんセンター研究所・細胞増殖因子研究部	堺 隆一
計 量 生 物	平成14. 6. 5	遺伝データの統計解析	放射線影響研究所統計部	和泉志津恵
	平成14.12.14	ブートストラップ法に基づく統計的推測	東京工業大学情報理工学研究科	下平 英寿
国際放射線情報センター	平成14.11.19	チェルノブイリ事故によるベラルーシ住民の甲状腺への放射線被曝	広島大学原医研	Shinkarev Sergey Mikhaylovich
	平成14.11.19	チェルノブイリ事故と甲状腺、副甲状腺疾患	広島大学原医研	Danilova Larisa Ivanovna
	平成14.11.19	チェルノブイリ、セミパラチンスクにおける放射線誘発性甲状腺癌	武市クリニック	武市宣雄
	平成15. 2. 19	セミパラチンスクの被曝者たちの現実：聞き取り調査を通して	ヒロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト	平岡 敬
	平成15. 2. 19	チェルノブイリの被曝者たちの現実：医療支援活動を通して	医療・技術ロシア語通訳	山田英雄
	平成15. 3. 14	悪性脳腫瘍に対する中性子捕捉療法と将来展望	国立療養所香川小児病院	中川義信
	平成15. 3. 14	中性子捕捉療法の次世代治療照射システムについて	京都大学原子炉実験所	古林 徹
	平成15. 3. 14	画像診断の現状	JA 広島総合病院	藤川光一
	平成15. 3. 14	モンテカルロ飛跡構造コードにおける最近の進歩	九州大学医療技術短期大学部	上原周三

研究分野	年月日	題 目	所 属	演 者
	平成15. 3 .14	HIMAC および京大炉におけるマイクロドジメトリー研究	九州大学医療技術短期大学部	鬼塚昌彦
	平成15. 3 .14	放射線生物学への挑戦：DNA 二重鎖切断欠損細胞を用いて	京都大学原子炉実験所	内海博司
	平成15. 3 .14	光子の放射線荷重係数の再評価	京都大学	佐々木正夫

